

27th KKHTCNN Symposium on Civil Engineering

(SHANGHAI CHINA)

由井 洋和
Yui Hirokazu
修士2回生

はじめに

11月9日～12日に中国の上海にある同済大学で開かれた第27回KKHTCNNシンポジウムに修士2回生の由井洋和が参加した。KKHTCNNは京都大学 (Kyoto University), 韓国科学技術院 (Korea Institute of Science and Technology), 香港科技大学 (Hong Kong University of Science and Technology), 同済大学 (Tongji University), タイのチュラロンコン大学 (Chulalongkorn University), シンガポール国立大学 (National University of Singapore), 国立台湾大学 (National Taiwan University) の7つの大学によって開催される国際シンポジウムである。同済大学と香港科技大学は一昨年からの参加であり, 本シンポジウムは今回, 初めての中国での開催であった。シンポジウムは地盤系, 構造系, 環境系の3つのセッションで構成されており, 本研究室は地盤系のセッションに参加した。

発表

表1に示すとおり研究内容を発表した。

表1 発表タイトル

由井 洋和	Estimation of the liquefaction in Osaka city due to an expected Nankai Trough earthquake using a dynamic analysis method
-------	--

由井 洋和 (M2)

* 質問された内容

From **Prof. Ye Lu (Shanghai University, China)**

Q: Did you compare your calibrated results with other simple methods?

A: Yes. I compared it with the P_L value. The P_L value is given by the maximum acceleration. In this analysis, the maximum accelerations were dumped because of the liquefaction. So, obtained PL values were too small while liquefaction occurred.

感想

今回の発表では、座長の Ye Lu 先生からご質問いただいた。難しい質問ではなかったものの、英語でうまく説明をすることができず、こちらの言いたかったことがきちんと伝えられなかった。会話であれば時間をかけて説明できることでも質疑応答の場では端的に必要なことを伝えなければならず、その点の難しさと自身の英語力の無さを実感した。発表は大きなミスはなかったが最後まで詰まることなく話すことに集中しすぎたので、アクセントや発音に関しても、もう少し練習しておけばよかったと反省した。

上海では街中で英語がまったく通じず焦ることもあったが、中国の人々は愛想もよく、思っていたよりもストレスを感じず過ごすことができた。上海では食べ物がおいしく、日本でもなじみのある中華料理のほかにも上海ガニや空芯菜なども食すことができた。

海外経験が少ない自分にとって、初めての中国は不安も大きかったが、大きなハプニングもなく、発表も含め充実した4日間を送ることができたと感じた。

